

# CSRの活動目標と実績

ニチアスグループは、お客さま、お取引先、株主・投資家、従業員とのつながりはもとより、  
社会全般および拠点のある地域社会とのつながりを大切に、より良い関係の構築を通して社会的課題の解決に貢献します。

○ 目標達成 △ 目標に対し50%以上達成 × 目標に対し50%未満達成 — 評価対象外

6つの軸	活動項目	目標／あるべき姿	2019年度計画	2019年度報告	自己評価	2020年度計画		
1	コーポレートガバナンス	内部統制評価	当社グループの内部統制が有効に機能し、リスクが低減され、健全な経営活動が推進されている	● 本体: 14拠点、子会社: 国内11拠点、海外10拠点を対象に業務監査を実施	● 本体: 13拠点、子会社: 国内9拠点、海外10拠点を対象に実施。いずれも問題がなく、内部統制が有効であることを確認した(新型コロナウイルスの影響のため、本体1拠点、国内子会社2拠点については2020年度に延期)	○	● 本体: 15拠点、子会社: 国内13拠点、海外11拠点を対象に業務監査を実施	
		コンプライアンス	当社「コンプライアンス綱領」に則り、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいる	● コンプライアンス活動が形骸化している支部委員会への運営支援、啓発教育の実施 ● 法令やコンプライアンス関連の勉強会を実施 ● コンプライアンス内部講師のフォローアップ研修および新規内部講師の育成研修の実施 ● 支部委員会、職場単位での啓発教育の実施 ● 「コンプライアンスポータルサイト」の充実化継続 ● コンプライアンス内部講師による各職場でのハラスメント防止研修の実施	コンプライアンスの徹底 ● 本部委員による41支部委員会への訪問 ● 支部委員会事務局連絡会6分科会の開催 各3回 ● 外部講師によるコンプライアンス研修(東京、大阪、袋井工場) ● 内部講師によるケーススタディを通じたハラスメント防止研修を実施 ● 「コンプライアンスポータルサイト」の充実化を実施	○	● 「コンプライアンスポータルサイト」の充実化継続 ● コンプライアンス内部講師による各職場でのハラスメント防止研修の実施 ● 海外子会社のコンプライアンス活動支援	
		知的財産の保護	競争優位性の確保と公正な競争秩序を維持するために、知的財産の保護・尊重をグループ一丸となって推進している	● 知的財産権保護知識の浸透と階層別研修の継続	● 3月に不正競争防止法 eラーニングを実施 ● 一部の階層別研修については新型コロナウイルス対策のため中止。実施時期は再検討	○	● 知的財産について引き続き、従業員に教育を行う ● 不正競争防止法 ・ブランド関係 ・著作権	
2	お客さまとのつながり	環境関連製品の提供	社会やお客さまのところで直接環境負荷低減に役立つ製品・サービスを提供する	—	● ニチアス環境関連製品売上金額(単体) 2019年度 635億円 2018年度 624億円 2017年度 603億円	—	—	
		製品の安定供給	災害など不測の事態が発生しても、供給責任を果たせる体制が構築できている	● 事業活動を行っていくためのBCP活動継続 ● 火災、爆発、自然災害を想定した製造拠点のリスク診断の継続実施(2拠点/年)	● ニチアスセラテック: 中野工場の竣工によるBCPの強化 ● 福島ニチアス: 第7工場の竣工によるBCPの強化 ● リスク診断 ニチアスセラテック: 1/22実施 福島ニチアス: 2/27実施	○	● 事業活動を行っていくためのBCP活動継続 ● 火災、爆発、自然災害を想定した製造拠点のリスク診断の継続実施(2拠点/年)	
		品質保証体制	安全で信頼性の高い製品・サービスを提供している	● 売上高1億円当たりのクレーム発生 0.21件以下 ● 品質教育による啓発活動の実施「品質アカデミー」[QC検定]	● 売上高1億円当たりのクレーム発生 0.18件 ● 「品質アカデミー」受講者数 334名 ● 「QC検定」合格者数 19名	○	● 売上高1億円当たりのクレーム発生 0.21件以下	
3	株主・お取引先とのつながり	株主・投資家への情報開示	株主・投資家の皆さまに公平、適切な情報開示ができています	● 適切な情報開示 ● 個別ミーティング 140件以上 ● 個人投資家向け会社説明会開催 ● 工場見学会実施 ● 海外IRの実施	● 11月に決算説明会を開催 ● 個別ミーティング131件の開催 ● 個人投資家向け会社説明会開催 ● 工場見学会実施 ● 海外IRの実施(イギリス、シンガポール)	○	● 適切な情報開示 ● 個別ミーティング 140件以上 ● 個人投資家向け会社説明会開催 ● 工場見学会実施 ● 海外IRの実施	
		公正な競争・取引	公正かつ自由な競争・取引が行われる環境下で事業活動を継続している 独禁法や下請法の趣旨や内容を理解し、順守している	● 独禁法、下請法に関する各種研修会の実施	● 本社、支社、工場、研究所および子会社に向けて独禁法および下請法の研修会を、計10回開催 ● eラーニング実施 ● 下請業者との取引実態調査において発覚した問題点の改善および再発防止を実施	○	● 独禁法、下請法に関する各種研修会の実施 ● 子会社の下請業者との取引実態の把握と改善	
		取引に関する方針	継続した事業活動を行うために、原材料のBCP対策ができています	● 主要仕入先に対して、CSRアンケートの実施	● CSR調達アンケートを実施(調達先30社) いずれのお取引先にも問題がないことを確認	○	● アンケート依頼先の範囲拡大(30社→50社)	
4	従業員とのつながり	ダイバーシティ	多様な人材が活躍できる環境づくりに取り組んでいる	● 女性総合職の積極採用: 採用率 20%以上	● 女性総合職の採用率 2020年入社 32% 2019年入社 21% 2018年入社 16% 2017年入社 23%	○	● 女性総合職の積極採用: 採用率 20%以上	
		ワークライフバランスの推進	仕事と家庭など仕事以外の生活との調和を保つ環境で働いている	● 有給休暇の取得推進: 計画取得の推進および有給休暇取得率 70%以上 ● 在宅勤務制度の施行	ニチアス本体 ● 全従業員の5日以上の有給取得を達成 ● 有給休暇取得率 2019年度 61.2% 2018年度 53.1% 2017年度 48.6% 2016年度 44.4% 子会社(21社の平均) ● 有給休暇取得率 2019年度 64% 2018年度 58% ● 2020年1月運用開始した	○	● 有給休暇の取得推進 ● 計画取得の推進 12月末までに5日以上取得 ● 有給休暇取得率 70%以上 ● 制度運用後の問題点の把握と対策の実施	
		従業員の安全と健康の推進	従業員の健康を維持し、働きやすい明るい職場づくりを推進している 従業員の安全を守るために、災害ゼロを推進している	● 育児・介護休業を取得しやすい環境の整備	ニチアス本体 ● 育児休業取得者数 2019年度:14名(内訳:男性3名、女性11名) ● 介護休業取得者数 2019年度:0名 子会社(21社の合計) ● 育児休業取得者数 2019年度:10名(内訳:男性3名、女性7名) ● 介護休業取得者数 2019年度:1名(内訳:男性1名)	● 従業員の健康増進: 健康診断二次検査受診率 100% ● 2019年度 健康診断二次検査受診率 98.8% ● メンタルヘルス: ストレスチェックと集団分析の継続実施 ● ストレスチェックと集団分析の実施 ● 重大災害(休業10日以上)の災害 0件 ● KY-指差し呼称徹底活動の推進 ● 指差し呼称実施者への評価方法の検討 ● 全事業場KY指導者の育成とKY活動の再スタート ● 安全作業指針(4種類)制定 ● 重大災害4件発生 ● KY-指差し呼称徹底活動の推進 ● 全事業場KYT再開、定常作業での指差し呼称を確認 ● KY指導も含めた各事業場の安全キーマン育成のため、中・防災による集合教育を企画・実施 ● 安全作業指針(1種類)制定・安全設計標準見直し	○	● 従業員の健康増進: 健康診断二次検査受診率 100% ● メンタルヘルス: ストレスチェックと集団分析の継続実施 ● 重大災害(休業10日以上)の災害 0件 ● KY-指差し呼称徹底活動の推進 ● 一人KYの推進 ● 安全キーマン育成教育の継続実施 ● 安全作業指針・安全設計標準・教育動画の整備 ● 未熟者の危険感受性向上のため、指導方法・内容の改善
		従業員、家族とのコミュニケーション	従業員と家族にとって当社がより身近な存在になれるような活動を実施している	● こども参観日: 本社、地域事業所での開催継続 ● 社内報「とんぼのわ」の発行継続 ● CSReラーニングの実施	● こども参観日: 本社、鶴見研究所、九州支社の3拠点で開催 ● 社内報「とんぼのわ」年4回の発行 ● CSReラーニングの実施: 当社グループ従業員を対象に4,472名受講	○	● こども参観日: 本社、地域事業所での開催継続 ● 社内報「とんぼのわ」の発行継続 ● CSReラーニングの実施継続	
5	社会とのつながり	地域貢献活動	当社グループそれぞれの事業所が地域に共存する存在として、地域に貢献する活動を行っている	● 各拠点によるCSR活動の充実	● 国内外の当社グループ88事業所による、事業所周辺の清掃や自治体活動の支援をはじめとする計500件を超えるCSR活動	○	● 各拠点によるCSR活動の充実	
		社会貢献活動	学術研究への貢献や災害支援など、広く社会に貢献する	● 学術研究助成の継続 ● 寄付を通じた地域への貢献 ● 災害支援の継続 ● フードバンクへの備蓄食料の提供	● 約800万円の寄付 ● 台風19号被害にともなう義援金として日本赤十字社に対して100万円を寄付 ● アルファマ740食、飲料水660リットルを寄付	○	● 学術研究助成の継続 ● 寄付を通じた地域への貢献 ● 災害支援の継続 ● フードバンクへの備蓄食料の提供	
6	環境への取り組み						環境への取り組みの活動項目・目標・実績はP22に掲載しています	